

英語専攻大学生の英語辞書使用に関する調査（１）

寺 嶋 健 史

松 山 大 学
言語文化研究 第40巻第1号（抜刷）
2020年9月

Matsuyama University
Studies in Language and Literature
Vol. 40 No. 1 September 2020

英語専攻大学生の英語辞書使用に関する調査（１）

寺 嶋 健 史

は じ め に

英語学習において辞書が不可欠であることは言うまでもない。近年では、従来の印刷辞書や電子辞書に加えて、パソコンやスマートフォン（以下「スマホ」と称す）などの情報端末機器を使ってウェブ上の無料辞書サイトにアクセスしたり、辞書専用アプリをダウンロードする方法が普及している。このことは、英語学習者の辞書使用事情にも影響を及ぼしていると考えられる。実際に、スマホの辞書としての活用に関する研究も進んでいる。例えば、小山（2019）は電子辞書に代わるスマホの可能性に関する４年間の一連の研究結果を報告している。英文読解時における語彙の定着などの学習効果において、スマホと電子辞書との間に有意な差はまだ見られないとしている。田吹（2019）では大学の英語授業におけるスマホ利用について調査し、辞書機能以外の娯楽に誘惑されない手立てを講じればスマホは有効的に働くとしている。以上のような状況を踏まえて、本研究では英語を専門的に学ぶ目的で入学した大学生に限定して、新しい辞書ツールも含めた辞書使用の実情について調べることにした。なお、調査事項が多岐にわたるため、紙面の制限の関係で２回に分けて研究結果を報告することにし、本論はその前半（１）である。

１．研究概要

この章では、本研究の概要について、目的、対象と実施方法、アンケートの

順に紹介する。

1-1. 目的

英語を専門に学ぶために入学した大学生（以下「英語専攻の被験者」と称する）の過去から現在に至るまでの辞書使用に関する実情を把握する。

1-2. 対象と実施方法

四年制私立大学の英語専攻学科に入学した1年生81名を対象に、過去の英語辞書の使用および受けた辞書指導に関するアンケートを、入学後3週間の時点における必修授業内で実施した。有効回答者数は78名である。

英語専攻被験者特有の傾向があるかどうかを調べるため、英語専攻被験者を対象にした類似の先行研究に加え、英語を専攻しない大学生（以下「非専攻の被験者」と称する）を対象にした先行研究結果も含めて比較・分析を試みる。

1-3. アンケート

本アンケートは、以下の6つの内容に関する設問で構成されている。実施したアンケートのコピーは論末資料として掲載している。

被験者の基本情報 A) 使用辞書の形態 B) 使用辞書の種類

C) 一般的な辞書使用 D) 辞書指導 E) 辞書使用の実演

本論では、基本情報からC)までの各設問の集計結果を紹介し、残りのD)とE)および全体の考察は後半として別論で扱うこととする。

2. 結果と分析

本研究の結果を次のように分析する。まず設問毎に単純集計結果を表で示し、さらにその設問に関連する先行研究結果を独自にまとめた表も示すことで、英語専攻被験者に見られる特徴や傾向の分析を試みる。

2-1. 基本情報

被験者の属性と基本情報の結果は表１にまとめている。全被験者の９割以上が英語好きで、８割は英語が得意であり続け、課外で英語に触れる割合がどの学校種でもそれなりに高い。英語専攻被験者ならではの典型的な結果である。

表１ 被験者の属性と基本情報

性別	人数		%	現在、英語は		%	英語は		%	中学校		%	高 校		%
	人数	人数		人数	人数		人数	人数		人数	人数		人数	人数	
男	32	41.0		好 き	48	61.5	得 意	41	52.6	17	21.8				
女	46	59.0		どちらかと いえば好き	26	33.3	どちらかと いえば得意	20	25.6	50	64.1				
				どちらかと いえば嫌い	4	5.1	どちらかと いえば不得意	8	10.3	8	10.3				
				嫌 い	0	0	不得意	8	10.3	2	2.6				

課外での英語経験

	人数	人数	人数	人数
	人数	人数	人数	人数
小学校	35	44.9		
中学校	60	76.9		
高 校	67	85.9		
大 学	26	33.3		

* 複数回答

現在使用している英和辞書

	人数	人数	人数	人数
	人数	人数	人数	人数
ジーニアス	38	48.7		
アンカー	13	16.7		
オーレックス	9	11.5		
ウィズダム	1	1.3		
ライトハウス	1	1.3		
不 明	16	20.5		

所持冊数/台数

	印刷辞書		電子辞書	
	人数	人数	人数	人数
1	21	26.9	32	41.0
2	17	21.8	30	38.5
3	5	6.4	6	7.7
4	1	1.3	0	0
無回答	34	43.6	10*	12.8

* うち５名は所持しているはず

約半数の被験者が大修館「ジーニアス」を使っている。使用辞書名を調査した畠山（1996）、Hatakeyama（1998）、西村他（2000）、畠山（2001）でも同様の結果となっている。大半の電子辞書に「ジーニアス」が収録されていることがその要因の１つと考えられる。現在使用している英和辞書は初めて所持したものから数えて何冊目（何台目）か尋ねたところ、電子辞書は２台までで62名になり全体の８割を占める。電子辞書は高価なこともあり１台目という回答が４割を占めることには理解できるが、印刷辞書については21名（27%）が

1冊目と回答している。英語専攻大学生が現在も中学生用の辞書を使っているか、あるいは中学生の時から高校生用辞書を使い続けているのだろうか。印刷辞書については34名が無回答であり、記入漏れまたは全く所持していない被験者が4割以上いることになる。また、表中の*印の10名のうち5名は後の電子辞書使用に関する設問に回答していることから、本来ではこの設問で電子辞書所持台数に回答していなければならないはずである。

大学生の英和辞書の所持冊数に関して調査した4つの研究結果と、本研究の「無回答」を除いた印刷辞書の所持率を並べると表1Aのようになる。

表1A 所持している英和辞書の冊数

	言語生活編集部 (1984)	畠山 (1996)	浅羽 (1997)			Hatakeyama (1998)	本研究
	非英語専攻	非英語専攻	経営	法	外国語	英語専攻12%	全英専
0冊	13.6%	0%					
1冊	40.6%	39.2%	38.3%	42.5%	35.7%	32%	47.7%
2冊	18.6%	44.5%	46.8%	43.7%	29.7%	48%	38.6%
3冊以上	27.2%	15.7%	12.7%	13.8%	34.5%	20%*	12.7%

*英語専攻者は35%

言語生活編集部(1984)は被験者144名中の文化系学生(非英語専攻)59名のデータ値である。3冊以上が27.2%で他の研究結果より高いのは、電子辞書が普及する前の80年代には入学時等に新しく辞書を購入することが多かったためと思われる。電子辞書が普及し始めた90年代以降の調査では10%台に下がるが、被験者が英語・語学系専攻の研究では30%台になる。Hatakeyama(1998)は表では20%であるが、その詳細は英語専攻者の所持率が35%で非専攻者は18%であったとしている。本研究では12.7%と低いが、これは電子辞書に加えてウェブ上の辞書サイトなど様々な辞書ツールが発達している時代であるため、印刷辞書所持冊数には表れていないと思われる。そこで、次の辞書に関する設問の最初に、様々な辞書ツールの利用に関する結果を紹介する。

2-2. 辞書に関する設問

この節からは、辞書に関する各種設問の集計結果を紹介していく。

2-2-1. 使用辞書の形態に関する設問

2-2-1-1. 使用辞書の形態

近年増加しているウェブにアクセスするオンライン辞書・翻訳機能や、スマホ内蔵または専用アプリをダウンロードしてオフラインで使える辞書を含めた辞書使用の実態に関する調査事例はまだ少ない。鞘（2012）は大学生 607 名に対して各種携帯情報端末の利用状況調査を実施した。本研究に關係する端末を抜粋してそれぞれの所持/使用者数とその比率を独自にまとめた結果が表 2 である。印刷辞書の所持率は高いが使用率は低い。電子辞書は所持率も使用率も高い。タブレットの使用率は高いが、所持率が低いため全体の使用率が極端に低くなってしまっている。被験者の 56.3% が所持するスマホの使用率は 98% であるが、タブレットと同様に所持率が全体の使用率を低下させている。次に、各種端末の電子辞書としての用途率は、スマホ（48.0%）、携帯電話（29.4%）、タブレット（11.9%）、ノート PC（12.9%）となっている。また、携帯情報端末があれば印刷辞書は不要という学生が全体の 38.9% を占める¹⁾。

表 2 辞書の所持と使用の人数と比率

	所 持		不所持	所持率	使用率 (所持者)	使用率 (全体)
	使 用	不使用				
印刷辞書	80	376	151	75.1%	17.5%	13.2%
電子辞書	444	75	88	85.5%	85.5%	73.1%
タブレット	32	10	565	6.9%	76.2%	5.3%
スマホ	335	7	265	56.3%	98.0%	55.2%

本研究では、鞘（2012）の時代とは違い、被験者全員がスマホを所持している。各学校種での授業と授業外における各種形態の辞書の使用状況を複数回答で尋ねた結果は表 3 である。回答選択肢の「不所持」とは形態の種類に關係な

く辞書自体を所持していない場合を、「不使用」は何らかの形態の辞書を所持していながらどの辞書も使わない場合を、それぞれ想定している。

学校種別に見ると、小学校時に既に辞書（大半が印刷辞書）を使っていた被験者がわずかにいる。この中には授業（外国語活動）と授業外の両方で使ったと回答した4名が含まれる。参考までに、被験者全78名の約半数の35名は小学校時に課外で何らかの形で英語に触れた経験を有する（表1）。中学校では、印刷辞書使用者が最も多いが、授業外になると電子辞書使用者が増加する。その一方で、4分の1近くが辞書不所持であり、何らかの辞書を所持しながら

表3 過去における各種辞書形態使用状況（複数回答）

	小学校				中学校				高 校			
	授 業		授業外		授 業		授業外		授 業		授業外	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
印刷辞書	5	6.4	8	10.3	28	35.9	24	30.8	30	38.5	18	23.1
電子辞書	0	0	1	0	9	11.5	15	19.2	56	71.8	61	78.2
オンライン	0	0	0	0	0	0	3	3.8	3	3.8	14	17.9
アプリ	0	0	0	0	2	0	3	3.8	3	3.8	15	19.2
不所持	47	60.3	45	57.7	21	26.9	20	25.6	2	2.6	1	1.3
不使用	15	19.2	14	17.9	16	20.5	14	17.9	2	2.6	0	0
無回答	9	11.5	10	12.8	5	6.4	5	6.4	1	1.3	4	5.1

	大 学				全校計		
	授 業		授業外		授 業	授業外	合 計
	人	%	人	%	人 数		
印刷辞書	14	17.9	9	11.5	77	59	136
電子辞書	70	89.7	63	80.8	135	140	275
オンライン	3	3.8	12	15.4	6	29	35
アプリ	3	3.8	12	15.4	8	30	38
不所持	0	0	0	0	70	66	136
不使用	4	5.1	3	3.8	37	31	68
無回答	1	1.3	7	9.0			

使っていなかった「不使用」の数を含めると全被験者の半数近くを占める。不使用の理由は2-2-2-2.で触れることにする。高校では、電子辞書使用者数が印刷辞書使用者数を上回るが、数値を見ると「授業では印刷辞書、授業外では電子辞書」の傾向がうかがえることから、電子辞書が普及した現在でもその方針の高校が一定数あると思われる。大学入学後は、電子辞書使用者数（特に授業で）がさらに増加し、逆に印刷辞書使用者数は減少する。オンラインやアプリ等の新しい辞書ツールの使用者数は多くても2割に満たない。

大学生を対象に各種形態の辞書使用状況を調べた他の研究結果を、本研究の結果と比較できるようにまとめたのが表3Aである。高橋他（2014）は、被験者の中学校・高校時代に加えて、現役中学生に対しても調査している。時國（2016）は使用頻度を4段階で尋ねており、具体的な値が示されていないため、表では大小関係のみとなっている。小山・山西（2017）は同（2016）に続いて入学直後と1年後の各種辞書使用について調査している。入学直後は電子辞書使用者が6割であるが1年後には3～4割に減少する。印刷辞書使用者は入学時に既にわずか6%である。これらとは逆にオンライン翻訳機能・辞書機能の割合は増加傾向にあり、スマホアプリは倍増している。英語専攻者が含まれると思われる教育学部生に限定すると、本研究の結果にやや近くなる。また小山・藪越（2018）によると、辞書情報を必要とする時には7割以上がスマホを使って辞書専用アプリではなく無料のウェブ翻訳サイトを使い、電子辞書使用者は2割弱であったとしている。藤田（2019）ではオンライン辞書使用が最多である。

以上の結果から、どの研究でも電子辞書が多く使われるのに対し、印刷辞書使用者は極端に少ない。一方、スマホでウェブ上の無料の辞書や翻訳サイトを利用する割合が増加傾向にある。英語専攻者に見られる特徴としては、電子辞書使用率が他より高いことと、印刷辞書使用率が少し高いことであろう。

被験者の高校時代と中学校時代の各種辞書使用頻度を調査した事例も本研究結果と比較できる形で表3Bに示す。まず高校時代についてみると、大学生と

表3A 各種形態辞書の使用率に関する先行研究との比較

高橋他 (2014) : 教育学部全般 (英語専攻を多少含む可能性)

電子辞書 (83%)	ネット (48%)	印刷辞書 (7%)	教科書ワード リスト (1%)
---------------	--------------	--------------	--------------------

時國 (2016) : 文学部 (英語専攻も含まれる可能性)

電子辞書	ネット	携帯内蔵	印刷辞書
------	-----	------	------

小山・山西 (2017) : 社会科学系と教育系 * 「読むとき」の値

入学直後	電子辞書 (60.4%)	ウェブ翻訳 (19.4%)	スマホアプリ (13.4%)	印刷辞書 (5.9%)
------	-----------------	------------------	-------------------	----------------

1年後

授業中	ウェブ翻訳 (34.2%)	電子辞書 (32.9%)	スマホアプリ (31.6%)	印刷辞書 (0.6%)
自宅学習	電子辞書 (37.8%)	ウェブ翻訳 (28.7%)	スマホアプリ (27.4%)	印刷辞書 (5.5%)

教育系学部生に限定

入学直後	電子辞書 (60.6%)	印刷辞書 (15.2%)	ウェブ翻訳 (21.2%)	スマホアプリ (3.0%)
1年後	電子辞書 (59.4%)	スマホアプリ (18.8%)	ウェブ翻訳 (15.6%)	印刷辞書 (6.3%)

藤田 (2019) : 非英語専攻 ?

上位群	オンライン辞書 (49.38%)	電子辞書 (25.93%)	オンライン翻訳 (14.81%)	印刷辞書 (9.88%)
下位群	オンライン辞書 (55.22%)	電子辞書・オンライン辞書 (17.91%)・(17.91%)		印刷辞書 (8.96%)

本研究 : 英語専攻のみ

授業	電子辞書 (89.7%)	印刷辞書 (17.9%)	オンライン (3.8%)	アプリ (3.8%)
授業外	電子辞書 (80.8%)	アプリ・オンライン (15.4%)・(15.4%)		印刷辞書 (11.5%)

同様に電子辞書が最も多い。しかし次位は印刷辞書である。新種のツールはまだそれほど使われていない。次に中学校時代を見ると、印刷辞書が主流である。教科書巻末のワードリストもかなり利用されている（この点は2-2-2-2.でも触れる）。電子辞書は1～2割程度で、新ツールはそれ以下である。

参考までに、2015年に実施された第5回ベネッセ学習基本調査（小学校編、

表３Ｂ 被験者の高校・中学時代の各種形態辞書の使用に関する先行研究

- ・高校時代
高橋他（2014）

電子辞書 (84%)	印刷辞書 (45%)	教科書ワード リスト(16%)	ネット (6%)
---------------	---------------	--------------------	-------------

本研究：英語専攻

授 業	電子辞書 (71.8%)	印刷辞書 (38.5%)	オンライン (3.8%)	アプリ (3.8%)
授業外	電子辞書 (78.2%)	印刷辞書 (23.1%)	アプリ (19.2%)	オンライン (17.9%)

- ・中学校時代
高橋他（2014）

印刷辞書 (85%)	教科書ワード リスト(54%)	電子辞書 (13%)	ネット (2%)
---------------	--------------------	---------------	-------------

現役中学生

教科書ワード リスト(35%)	印刷辞書 (31%)	電子辞書 (22%)	ネット (10%)
--------------------	---------------	---------------	--------------

本研究：英語専攻

授 業	印刷辞書 (35.9%)	電子辞書 (11.5%)	アプリ (2.6%)	オンライン (0%)
授業外	印刷辞書 (30.8%)	電子辞書 (19.2%)	オンライン (3.8%)	アプリ (3.8%)

中学校編，高校編）の中の，本研究の内容と関係がある質問とその回答を抜粋する。「家ではどのような勉強の仕方をする人が多いか」の質問の中の「辞書（英語・国語など）を引く」に対する結果は表３Ｃである。さらに，「よくする」と「ときどきする」と回答した人に対して，「パソコンやスマートフォン，タブレットなどを使って次のようなことをするか」の質問から本研究に関係するものを拾い上げたのが表３Ｄである。実施された2015年は本研究の被験者が中学３年生の時である。

表３Ｃ 辞書（英語・国語など）を引く

	中学生	高校生
よくする	12.8%	23.9%
ときどきする	27.6%	31.9%
あまりしない	34.4%	27.6%
ほとんどしない	24.4%	16.4%
無回答・不明	0.9%	0.3%

表3D 家庭での学習に関する各種設問と回答

①自分専用の（ ）を持っている				②パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使って勉強することが～			
	小学生	中学生	高校生		小学生	中学生	高校生
パソコン	7.0%	11.5%	13.4%	よくある	16.1%	14.6%	17.9%
タブレット	17.0%	25.4%	15.0%	時々ある	39.4%	35.3%	42.6%
スマホ	42.6%	52.6%	93.4%	ない	43.0%	46.7%	36.8%
				無回答・不明	1.5%	3.4%	2.6%

③英語や国語，古典の辞書を使う / 勉強用のアプリを使う

	中学生	高校生		中学生	高校生
よくする	27.4%	38.2%		19.2%	11.5%
ときどきする	32.7%	34.2%		23.3%	18.0%
ほとんどしない	29.7%	20.4%		47.5%	59.5%
無回答・不明	10.2%	7.2%		9.9%	11.0%

(ただし，電子辞書は除く)

表3Dによると，4割の小学生が自分用のスマホを持ち，高校生では9割以上である(①)。小・中・高校生の半数以上(小55.5%，中49.9%，高60.5%)が勉強にICTメディアを使うことがある(「よくある」+「時々ある」の%：②)と回答している。中学生にその内容について尋ねると，「英語や国語，古典の辞書を使う」が最も多かった(中60.1%，高72.4%：「よくする」+「時々する」の%)。一方，アプリの使用率はそれほど高くないが，表3Bの結果と比べるとやや高めである(③)。英語の他に国語も対象であるため数値が高くなるのかもしれない。

以上のことから，高校以降では電子辞書，中学校では印刷辞書の使用頻度が最も高い。しかし印刷辞書は高校以降低下し続ける。スマホ等を使ったオンラインやアプリ等のオフラインの辞書使用は，現在ほど普及していなかった被験者の中学生・高校生の頃とは違い，大学(特に授業外)で増える傾向がある。かつて電子辞書が印刷辞書に取って代わったことがあったように，スマホや

Wi-Fi 環境が普及した現在を鑑みると、全ての学校種での新しい辞書ツールの使用について今後の動向を注視する必要があるだろう。

2-2-1-2. よく使う電子辞書機能

全 78 名のうち電子辞書使用者 72 名を対象に、よく使う機能と今まで知らなかった（この調査で初めて知った）機能を尋ねた。ただし、電卓、手書き入力、ズーム表示といった英語学習とは直接関係がない機能は対象外にしている。

表 4 を見ると、どの機能も一定数の被験者によって使われている。熟語・成句検索機能と発音・音読機能は 9 割の被験者によって使われており、例文検索機能、スペルチェック機能がそれに続く。それ以外の機能については、使う被験者は半数以下である。知られていない機能としては、ワイルドカード検索（単語のスペルが不明な部分に「？」や「～」を入力すると該当する単語の候補を示す機能）が最多であるが、この機能は学習者にとっては用途が特殊であるため知らなくても致し方ないが、電子辞書特有の便利な機能であるジャンプサーチをよく使うのが 29 名と 4 割しかおらず、13 名（約 2 割）は今回初めて知ったと答えていることから、これらの被験者は電子辞書を十分に活用できていないと思われる。

電子辞書の各種機能の使用頻度を調査した他の研究と本研究の結果を比較できるように独自にまとめたのが表 4 A である。各研究で使用頻度の定義が異なるため、あくまで筆者の判断・解釈に基づいて作成している。熟語・成句検索、

表 4 各種機能の使用者数と認知度

機能 (複数回答)	使用		初 耳	
	人	%	人	%
熟語・成句検索	67	93.1	0	0
発音・音読	64	88.9	0	0
例文検索	43	59.7	0	0
スペルチェック	38	52.8	7	9.7
ジャンプサーチ	29	40.3	13	18.1
マーカー・付箋	26	36.1	7	9.7
単語登録・単語帳	22	30.6	4	5.6
ヒストリー・履歴参照	20	27.8	7	9.7
ワイルドカード検索	9	12.5	26	36.1
その他	2	2.8	0	0

電子辞書の各種機能の使用頻度を調査した他の研究と本研究の結果を比較できるように独自にまとめたのが表 4 A である。各研究で使用頻度の定義が異なるため、あくまで筆者の判断・解釈に基づいて作成している。熟語・成句検索、

表4 A 各種機能の使用頻度に関する先行研究との比較

	本研究	Kobayashi (2008)	中山・大崎 (2009)	時國 (2016)
	全英専	英専4割	英語専攻	英含?
熟語・成句検索	○	○	○	○
例文検索	○	○	○	○×
発音・音読	○	○	—	○
スペルチェック	○	×	—	—
ジャンプ	△ *	○	×	*
付箋・マーカー	△	—	—	—
単語登録・単語帳	△	△	—	—
履歴・ヒストリー	△	○	—	*
ワイルドカード検索	*	×	—	—
複数辞書検索	—	—	×	○

○：よく使われる，△：ある程度使われる，×：あまり使われない

*：存在を知らない，—：調査対象外

○×：よく使われる一方で，使わない機能の中では最多

例文検索，音声・発音の各機能は比較的良好に使われていることがわかる。ワイルドカード検索も含めてスペルチェック関係の機能はあまり使われないようである。この点については，スペルを入力するたびに表示される候補の単語から選んだり，和英辞書を使うことで探し出すことができるためと思われる。表の4つの研究は被験者の全員または一部が英語専攻者であるが，共通した傾向は特に見られない。

様々な便利な機能が充実する一方で，利用者がそれらを使いこなせていないことや，電子辞書に特化した辞書指導の必要性は，関山（2005a），関山（2005b），寺嶋（2007a），Kobayashi（2008），小川（2018）などをはじめ，以前から指摘されている。「宝の持ち腐れ」にならないように，また効果的な学習につなげるためには，電子辞書に特化した指導は不可欠であろう。電子辞書指導に関してはこの後2-2-4-2.でも触れる。

2-2-2. 使用辞書の種類に関する設問

2-2-2-1. 使用頻度

本被験者の現在までにおける、英和、和英、英英の各種辞書の使用頻度は表 5 である。英和辞書に関しては、中学校で使用（「使う」+「時々」）と不使用（「あまり」+「使わない」）の割合がほぼ同じで、高校からは使用者が急増する。和英辞書は、中学校までは不使用者が多いが高校からは逆転する。使用率が低い英英辞書は、被験者が英語専攻ということもあり 13 名が高校時代から使っており、大学入学後には 19 名（24.2%）に増加する。

表 5 各種辞書の使用頻度

辞書	学校種	使 う		時々使う		あまり使わない		使わない	
		人	%	人	%	人	%	人	%
英和	小学校	0	0	2	2.6	9	11.5	67	85.9
	中学校	12	15.4	27	34.6	13	16.7	26	33.3
	高 校	68	87.2	7	9.0	0	0	3	3.8
	大 学	47	60.3	19	24.4	5	6.4	7	9.0
和英	小学校	0	0	3	3.8	6	7.7	68	87.2
	中学校	8	10.3	11	14.1	18	23.1	40	51.3
	高 校	35	44.9	28	35.9	6	7.7	8	10.3
	大 学	30	38.5	26	33.3	7	9.0	14	17.9
英英	小学校	0	0	0	0	1	1.3	76	97.4
	中学校	0	0	0	0	5	6.4	72	92.3
	高 校	3	3.8	10	12.8	15	19.2	49	62.8
	大 学	3	3.8	16	20.5	15	19.2	41	52.6

大学生を対象にした同様の調査事例の結果は表 5 A である。どの研究でも最も使われるのは英和辞書で、和英辞書は割合がかなり減るもののある程度は使われ、英英辞書の使用率は極端に低い。被験者が英語専攻の 2 つ研究では、和英辞書と英英辞書の使用率が、非専攻者対象の山岸（1998）よりも高い。ただ本研究の場合は、複数辞書の使い勝手がよい様々な新しい辞書ツールが普及している時代であることもその要因の 1 つかもしれない。

以上のことから、英語専攻被験者に見られる特徴としては、和英辞書と英英辞書の使用率が非専攻被験者よりも高い、ということである。

次に、高校時代の各種辞書使用頻度を調べた研究結果（表 5 B）を見ると、

表 5 A 各種辞書使用頻度の先行研究との比較

萩野 (1995) [英語専攻]		よく使う	時々使う	あまり 使わない	全く 使わない
	英和	94.4%	5.6%	0%	0%
	和英	14.4%	56.7%	22.2%	6.7%
	英英	1.1%	4.4%	12.2%	82.2%

山岸 (1998) [非英語専攻]		頻繁に	かなり 頻繁に	普 通	ほとんど 不使用	不使用
英和	A 大学	51.4%	24.3%	20.3%	4.1%	0%
	B 大学	67.4%	20.7%	6.5%	5.4%	0%
和英	A 大学	2.5%	7.5%	42.5%	40.0%	7.5%
	B 大学	0%	18.5%	33.7%	30.4%	17.4%
英英	A 大学	0%	0%	0%	22.5%	77.5%
	B 大学	0%	0%	7.6%	18.5%	73.9%

本研究 [英語専攻]		よく使う	時々使う	あまり 使わない	ほとんど 使わない	無回答
	英和	60.3%	24.4%	6.4%	9.0%	0%
	和英	38.5%	33.3%	9.0%	17.9%	1.3%
	英英	3.8%	20.5%	19.2%	52.6%	1.3%

英和辞書の使用率が高く
英英辞書が低いことは大
学時代の結果と共通して
いるが、被験者が英語専
攻の本研究では全種辞書
の使用率が非専攻者より
もかなり高い。

大学生を対象にした中
学校時代の各種辞書の使
用状況の調査事例は見当

表 5 B 高校時代の各種辞書使用の先行研究との比較

山岸 (1998) A 大学の高校時代		頻繁に	かなり 頻繁に	普 通	ほとんど 不使用	不使用
	英和	26.3%	35.1%	24.6%	14.0%	0%
	和英	1.8%	1.8%	17.5%	57.9%	21.1%
	英英	1.8%	0%	1.8%	22.8%	73.7%

本研究 (高校時代)		よ く	時 々	あまり	ほとんど	無回答
	英和	87.2%	9.0%	0%	3.8%	0%
	和英	44.9%	35.9%	7.7%	10.3%	1.3%
	英英	3.8%	12.8%	19.2%	62.8%	1.3%

たらないため、高専学生の中学校時代を調査した勝呂（1988）、種村（2008）と、中学生を対象に調査した小山（2014）の３研究と本研究とを比較した（表 5 C）。高専生を対象にした２つの研究では辞書の種類には触れられていないが英和辞書が基本と思われる。小山（2014）は和英辞書や電子辞書も対象になっている。種村（2008）を除くと、使用率は概ね５～６割である。中学校での辞書使用率の低さの要因については次の設問で触れる。

表 5 C 中学生の辞書使用頻度の先行研究結果との比較

勝呂（1988）

よ く	たまに	めったに	あまり	不所持
23.0%	41.0%	13.0%	17.0%	6.0%

種村（2008）

	毎 回	よ く	たまに	あまり	ほとんど	全 く
授業で	0.6%	0%	27.1%	8.9%	29.4%	27.1%
塾 で	1.6%	3.8%	8.1%	2.2%	10.2%	74.2%
家庭で	3.3%	13.6%	29.9%	16.4%	16.8%	20.1%

小山（2014）

よ く	時 々	あまり	全 く
16.5%	39.9%	25.8%	17.8%

本研究（中学校時代）

	よ く	時 々	あまり	ほとんど	無回答
英和	15.4%	34.6%	16.7%	33.3%	0%
和英	10.3%	14.1%	23.1%	51.3%	1.2%
英英	0%	0%	6.4%	92.3%	1.3%

参考までに、寺嶋（2007a）で中学校・高校の英語教員の学生時代における各種辞書の使用頻度を調べているので、その結果を表 5 D にまとめる。中学生時は、英和辞書使用率（「毎日」＋「よく」＋「時々」：以下同様）が 64.9%，和英辞書で 33.9%，英英辞書でも 0.8% で、本研究の被験者の中学生時代よりかな

り高い割合である。高校時代は、英和（98.1%）、和英（75.2%）、英英（8.6%）と本研究と大差はないが、大学時代では、英和（92.2%）、和英（82.1%）、英英

（73.7%）と驚異的な数字である。本研究の被験者は入学間もない時期の調査であるため、今後表5Dのような結果になるかどうか動向を注視してみる価値はある。本研究の被験者よりも英語専門「色」が強い現職英語教員とあって、全てにおいて高い数値になっている。

2-2-2-2. 英和辞書の使用場面と不使用の理由

英和辞書に限定し、使用者に対しては使用する場面を、不使用者には使わない理由を、それぞれ尋ねた。

まず、使用場面については表6のとおりである。どの学校種でも授業の予習・復習が最も多く、授業中がそれに続く。高校時代では様々な場面で使用していることから、最も辞書が活用される時期

表 5 D 英語教員の学生時代の各種辞書使用頻度

辞書	学校種	毎 日	よ く	時 々	あまり	全 く
英和	中学校	17.4%	22.4%	25.1%	16.9%	18.2%
	高校	73.2%	22.4%	2.5%	1.3%	0.6%
	大学	63.0%	22.5%	6.7%	0.2%	4.6%
和英	和英	0.8%	7.1%	26.2%	25.7%	40.2%
	高校	8.4%	30.8%	36.0%	9.6%	15.3%
	大学	15.1%	40.4%	26.6%	5.6%	12.3%
英英	中学校	0.2%	0%	0.6%	14.4%	84.7%
	高校	1.0%	1.3%	7.3%	18.0%	72.4%
	大学	10.5%	26.2%	37.0%	9.2%	17.2%

表 6 辞書を使った場面（複数回答）

場 面	小学校		中学校		高 校		大 学	
	人	%	人	%	人	%	人	%
授業の予習・復習	1	1.3	28	35.9	60	76.9	51	65.4
授業中	0	0	22	28.2	62	79.5	41	52.6
受験勉強	0	0	11	14.1	53	67.9	4	5.1
検定英語取得勉強	1	1.3	8	10.3	38	48.7	19	24.4
塾・英会話学校、等	3	3.8	14	17.9	20	25.6	2	2.6
その他	0	0	0	0	1	1.3	1	1.3

であることがわかる。

高橋他（2014）では、全ての学校種において、英語の宿題で辞書を使う割合が9割を占め、試験勉強（中学：4割、高校：5割、大学：約3割）と塾/他教科（全2割）がそれに続く。浅羽（1997）では、被験者の専攻分野に関係なく7割が自宅で授業の予習、授業中は1割程度である。

以上のことから、辞書が最も使われる場面は、被験者が英語専攻か否かに関係なく、学校の授業の予習のようである。

次に、辞書を使わない理由一覧は表7である。小学校で使わない理由には納得がいく。中学校で特徴的なのは、教科書巻末にある単語リストを辞書の代用にした人の多さである。辞書の形態を尋ねた2-2-1-1.で、中学校時に辞書を使わない・所持していない人数の多さに触れたが、その主な理由がここにある。井上（2004）や寺嶋（2007b）では、中学校英語教員が辞書指導の時間が取れないことやワードリストを活用している実態が報告されている。なお、大学生

表7 辞書を使わなかった理由（複数回答）

理 由	小学校		中学校		高 校		大 学		合計
	人	%	人	%	人	%	人	%	
使用機会が無かった	41	52.6	11	14.1	1	1.3	6	7.7	59
辞書不所持	31	39.7	18	23.1	1	1.3	0	0	50
教員が意味を教えた	18	23.1	11	14.1	1	1.3	0	0	30
教科書巻末リスト	3	3.8	15	19.2	1	1.3	1	1.3	20
教科書ガイド	5	6.4	5	6.4	0	0	0	0	10
市販単語帳	1	1.3	4	5.1	1	1.3	2	2.6	8
辞書を引かず	5	6.4	3	3.8	0	0	0	0	8
他人に尋ねた	1	1.3	1	1.3	0	0	1	1.3	3
引いたが見つけれず	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教員が不使用を指示	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	1	1.3	1
無回答	3	3.8	2	2.6	0	0	2	2.6	7

を対象に過去の辞書不使用の理由を調査した先行研究がないため、英語専攻者特有の傾向の分析はできていない。

2-2-3. 一般的な辞書使用に関する設問

2-2-3-1. 辞書使用の促し

今までに辞書使用を促された経験の有無と、その促しの詳細について尋ねた。78名のうち約9割に相当する70名が促しを受けた経験を有していた。受けた学校種と学年については表8のとおりである。異なる学年で受けることもあるため、各学校種の全体の人数には複数回答が含まれる。また、授業中か授業外かは尋ねていないが、次の設問（表9：誰から促されたか）の回答を見れば授業中であることは把握できる。高校で

表8 辞書使用の促しを受けた時期（複数回答）

	全 体		1 年 生	2 年 生	3 年 生	5 年 生
	人数	%	人 数			
小学校	2	2.2	1	1	1	1
中学校	30	33.7	21	17	15	
高 校	62	69.7	50	40	39	
大 学	14	15.7	14	0	0	
無回答	8	9.0	4			

促しを受けたのが62名（7割）で最も多い。高校では複数の異なる英語科目があり、促しを受ける機会が多いためと思われる。教科書ワードリストが重宝される中学校ではその半分以上の33.7%である。両校種とも1年生が最も多いが、どの学年でも年間を通して（特に高校では約半数の被験者が）促しを受けている。

誰から、どの程度（頻度）、その促しに対してどうしたか（対応）の各設問の回答結果は表9である。一般的に学習者から嫌厭されがちな辞書使用であるが、本研究では「英語教師から」「頻繁に」辞書使用の促しを受け、「そのとおり従っていた」被験者が多い。2-1-2.で触れた典型的な英語専攻者の特徴を反映した結果である。一方で、そのような学習者は周囲から促されなくても自発的に辞書を使うという考え方もできるが、その真偽はわからない。辞書使用の

表 9 辞書使用の促しを受けた人物，頻度，それに対する対応
(複数回答)

誰から	小学校		中学校		高 校		大 学		合計
	人	%	人	%	人	%	人	%	
英語教師	2	2.9	24	34.3	64	91.4	14	20.0	104
塾講師	0	0	4	5.7	6	8.6	0	0	10
親 族	0	0	1	1.4	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	1

頻 度	小学校		中学校		高 校		大 学		合計
	人	%	人	%	人	%	人	%	
常 に	0	0	5	7.1	25	35.7	4	5.7	34
頻繁に	1	1.4	12	17.1	32	45.7	5	7.1	50
時 々	1	1.4	10	14.3	10	14.3	1	1.4	22
数 回	0	0	3	4.3	1	1.4	4	5.7	8

対 応	小学校		中学校		高 校		大 学		合計
	人	%	人	%	人	%	人	%	
従った	2	2.9	20	28.6	45	64.3	10	14.3	77
ある程度	0	0	6	8.6	20	28.6	3	4.3	29
あまり	0	0	1	1.4	3	4.3	0	0	4
従わなかった	0	0	1	1.4	0	0	0	0	1

促しに対する学習者の詳細を調べた先行研究はほとんどないため，この結果が英語専攻者に帰するものなのかどうかの分析まではできていない。

2-2-3-2. 第一語義以外に参照する情報

辞書を引いた際に第一語義以外に参照する情報を複数回答で尋ねた結果が表 10 である。辞書を使う主たる目的が語義を調べることであることが多いが，64 名（8 割）が第一語義だけで済ませることなく「第二語義以降」まで参照している。次に例文，綴り，発音（7 割），熟語・成句，品詞（5～6 割）が続く。それ以下の項目は参照者が急減し 3 割に満たない。

大学生が辞書を引いた際に参照する情報について調査した4つの先行研究の結果が表10Aである。Hatakeyama (1998)では参照頻度を“very often”から“never”までの5段階で尋ねている。研究によって選択肢の情報や順位は異なるが、参照率が高い(5割以上)情報に注目すると、語義の9割を除くと、熟語・成句、例文、スペルが該当する。一方、発音、文法、語法、品詞の参照率はそれほど高くない。

英語系専攻者を対象にした研究結果を比べると、Hatakeyama (1998)では、英語専攻の学生は発音と例文の参照率が非専攻の

表10 英和辞書の参照情報

事 項	人	%
第二語義以降	64	82.1
用例・例文	56	71.8
スペル・綴り	55	70.5
発音(記号)、強勢	55	70.5
熟語・成句	45	57.7
品 詞	43	55.1
類語・同義語・反意語	22	28.2
語法・用法・文型	17	21.8
語形変化・派生語	11	14.1
挿絵・図・写真	8	10.3
語源・歴史	4	5.1
コラム欄	4	5.1
重要頻度の印	1	1.3
語の切れ目・分節	1	1.3
付 録	0	0

表10A 参照情報に関する先行研究

Hayakeyama(1998)：英語専攻 12%		言語生活編集部(1984)		畠山(1996)	
very often + often	never	非英語専攻	非英語専攻	非英語専攻	非英語専攻
語義(97%)	語源(52%)	意味・用法(28.6%)	語義(97.6%)	意味・用法(28.6%)	語義(97.6%)
熟語(60%)	図表(46%)	スペル確認(21.7%)	熟語・成句(64.6%)	スペル確認(21.7%)	熟語・成句(64.6%)
スペル(60%)	文化情報(44%)	発音・アクセント(18.5%)	語法(58.5%)	発音・アクセント(18.5%)	語法(58.5%)
例文(54%)	ハイフネーション(39%)	文法(13.8%)	綴り(56.9%)	文法(13.8%)	綴り(56.9%)
発音(37%)	重要度(30%)	慣用句・前置詞(13.8%)	用例・例文(56.2%)	慣用句・前置詞(13.8%)	用例・例文(56.2%)
活用形(36%)		その他(3.7%)	発音(38.0%)	その他(3.7%)	発音(38.0%)
品詞(29%)			語形変化(37.5%)		語形変化(37.5%)
文型(24%)			品詞(28.8%)		品詞(28.8%)
同義語(20%)			語の切れ目(6.1%)		語の切れ目(6.1%)
重要度(16%)					
文化情報(7%)					
図表(7%)					
ハイフネーション(5%)					

浅羽(1997)		
外国語	経 営	法
例文(44.0%)	例文(42.5%)	例文(55.1%)
語法・文化(36.9%)	語義のみ(36.1%)	語義のみ(24.1%)
語義のみ(20.2%)	語法・文化(25.5%)	語法・文化(20.8%)

学生よりも15%近く高いことが説明されている。浅羽（1997）では、発音は回答選択肢に無かったせいと言及されていない。本研究を含めて計3つの英語系専攻者を対象にした研究結果に共通した傾向は特に見出せないが、例文はよく参照するようである。

第一語義だけ確認するとそのまま閉じてしまう（電源を切ってしまう）学習者が多いと思われるがちであるが、実際にどの程度深く参照しているかは別として、被験者の専攻分野に関係なく様々な情報を参照していることがわかる。

2-2-3-3. 未知の単語があったときの対処

予習・復習や何気ないときに知らない単語に遭遇したらどうするか(したか)を複数回答で尋ねた。表11を学校種別に見ていくと、中学校では「教科書の巻末単語リストを使う」が40名(51.3%)で最も多く、「辞書を引く」、「教師など誰かに尋ねる」が続く。2-2-1-1.と2-2-2-2.で触れた教科書巻末単語リストの件がここでも結果に表れている。被験者が中学生の時には携帯情報端末が個人所有レベルで普及していない（あるいは所持を許されていない）ためか「ネットで調べる」は18名(23.1%)であるが、現在の中学生であればもっと

表11 未知語遭遇時の対処（複数回答）

	中学校		高 校		大 学		合計
	人	%	人	%	人	%	
辞書を引く	32	41.0	74	94.9	68	87.2	174
ネットで調べる	18	23.1	60	76.9	51	65.4	129
市販単語帳を使う	9	11.5	31	39.7	14	17.9	54
教師など誰かに尋ねる	28	35.9	32	41.0	7	9.0	67
教科書巻末リストを使う	40	51.3	11	14.1			51
市販教科書ガイドを使う	6	7.7	2	2.6			8
特に何もしない	9	11.5	0	0	0	0	9
その他	1	1.3	0	0	0	0	1
無回答	0	0	0	0	2	0	2

多いと思われる。高校と大学では「辞書を引く」(大学 95%・高校 87%), 「ネットで調べる」(大学 77%・高校 65%) の順になっており, 辞書使用率が高くなる。高校では副教材や受験勉強用に所有している市販の単語帳を 4 割近くが使っている。その単語帳を引き続き大学入学後も使い続けている学生がそれなりにいることがわかる。この設問に関する比較対象の研究がないため、英語専攻者特有の傾向分析はできていない。

2-2-3-4. 読解中の辞書を引くタイミング

読解中に未知語に遭遇したらいつ辞書を引くかを尋ねたところ, 「ある程度読み進んでから」が 35 名 (45%) で最も多く, 次いで「未知語がある毎に引く」(36%) である。前後の文脈から推測を試みるのは 13 名 (約 17%) に留まっている (表 12)。

他の研究結果 (表 12A) を見ると、英語専攻か否かに関係なく大学生は概してある程度読み進んでから引く割合が高い。一方高校生は未知語毎に引く割合が高い。これと同様の傾向が本研究の被験者にも見られるが、本研究が大学入学後間もない時期の

表12 読解中の辞書引きタイミング

対 応	人数	%
未知語がある毎に	28	35.9
ある程度読んだ後で	35	44.9
引かずに推測する	13	16.7
意味を知ろうとしない	1	1.3

表12A 辞書引きのタイミングに関する先行研究との比較

		未知語毎に	ある程度 読んだ後で	辞書引かず 類推	その他
佐藤 (1995) [英専]←	高校生	62.0%	14.0%	21.0%	
	短大生	12.0%	68.0%	24.0%	
	大学生	23.0%	42.0%	38.0%	
浅羽 (1997)	外国語	32.1%	59.5%		9.5%
	経 営	31.9%	65.9%		2.1%
	法	49.4%	44.9%		5.7%
本研究	英 専	35.9%	44.9%	16.7%	2.6%

調査ということが要因かもしれない。なお、浅羽（1997）の「その他」には「類推する」も含まれる可能性があるが、特に説明はなく詳細は不明である。

3. まとめと考察（１）

本論で扱った各設問の結果をまとめる。本研究の被験者は全員英語専攻ということもあり、多くが小学校時から課外で英語に触れ、英語が好きで得意科目であり続け、「ジーニアス」使用者が多い。電子辞書が普及する以前は英語専攻者の印刷辞書所持冊数は非専攻者よりも多かったが、様々な形態の辞書が普及した現在ではその傾向は見られない。

中学校時は印刷辞書使用者が多い一方で、辞書不所持者と不使用者とで半数近くを占める。高校時は電子辞書使用者が多く大学ではさらに増加する。逆に印刷辞書使用者は激減する。スマホなどの携帯端末を使ったオンライン辞書やアプリの使用者が増加傾向にある。被験者の９割が電子辞書使用者で、熟語・成句検索、例文検索、発音の各機能をよく使う。英語専攻者に見られる傾向として、非専攻者よりも電子辞書使用率がかなり高く、印刷辞書使用率はやや高い。

どの学校種でも英和辞書が最もよく使われ、英英辞書はほとんど使われない。英語専攻者は非専攻者と比べると、和英辞書と英英辞書の使用率が高く、高校時代における全種辞書の使用率が高い。究極の英語専攻者である英語教員の学生時代の各種辞書使用頻度は、本研究の被験者よりもかなり高い。辞書を使う場面は授業の予習が最も多い。一方、中学校では辞書使用率が低く、教科書巻末の単語リストが代用されていたケースが目立った。

被験者の９割が辞書使用の促しを受けた経験を有し、その７割が高校時代である。またどの学校種でも英語教員から頻繁に辞書使用を促されそれに従っていた。辞書を引いた際によく参照する情報は、例文、熟語・成句、スペル（英語専攻者は特に例文）である。未知語があると、中学校時代には教科書巻末単

語リストをよく利用し、高校以降は辞書で調べる割合が増える。英文読解中では、ある程度読み進んでから辞書を引く者が多い。いずれも英語専攻者特有の傾向の有無は不明である。

後半の辞書指導に関する設問と辞書使用の実践に関する設問の結果・分析とまとめ・考察は、論頭で触れたように、別論（2）で紹介し、両論の総括も行う予定である。

注

- 1) 当該論文の結果解釈文中には57.1%とあるが、グラフの値と見比べると38.9%の誤りと思われる。
- 2) 小山・山西（2017）では、読む時と書く時の2つの場合を尋ねているが、本研究では読む時の値を示している。

参 考 文 献

- 浅羽亮一（1997）.「英語教育における英和辞典について－学習者の立場から－」『明海大学外国語学部論集』9, 123-137.
- 言語生活編集部（1984）.「アンケート 辞書の利用状況」『言語生活』第388号, 50-55.
- 小川貴宏（2018）.「日本における独立携帯型辞書検索端末（いわゆる「電子辞書」）の現状と課題」『成蹊大学一般研究報告』50(7), 1-17.
- Kobayashi, C. (2008). The Role of Pocket Electronic Dictionary in EFL Learning. 『天理大学学報』60, 103-122.
- 小山敏子・山西博之（2016）.「大学生の英語学習における『スマホ辞書』利用の現状」『第42回全国英語教育学会埼玉研究大会発表予稿集』276-277.
- 小山敏子・山西博之（2017）.「大学生の英語辞書利用に対する意識変化」『全国英語教育学会第43回島根研究大会発表予稿集』322-323.
- 小山敏子・藪越知子（2018）.「大学生英語学習者は『なにを使い』『どのように』言語情報を入手しているのか」『外国語教育メディア学会第58回全国大会予稿集』120-121.
- 小山敏子（2019）.「スマホ版辞書の可能性：電子辞書との比較において」2015～2018年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書. <https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-15K02739/15K02739seika.pdf>（2020年5月20日アクセス）
- 佐藤洋（1995）.「学習英和辞典をめぐる調査－英和辞書はどう役立っているか－」『學苑』663, 20-29. 昭和女子大学近代文化研究所.
- 勝呂譲（1988）.「自主学習の実態と辞書指導のあり方－単語検索能力は実力を反映するか－」

- 『沼津工業高等専門学校研究報告』22, 75-86.
- 関山健治 (2005a). 「電子辞書の利用者行動に関する実証研究－利用者は電子辞書を本当に使いこなしているのか?－」『外国語メディア教育学会中部支部研究紀要』16, 11-22.
- 関山健治 (2005b). 「辞書をどう教えるか－電子辞書を視野に入れた辞書指導の方向性－」『ことばと人間』5, 21-32.
- 高橋渉・酒井英樹・田中江扶・金子史彦・田中真由美・Colleen Dalton・津金俊文・小泉一輝・戸谷裕美子 (2014). 「英語教育における辞書の活用－新学習指導要領に対応して－」『信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要教育実践研究』15, 1-10.
- 種村俊介 (2008). 「英和辞書指導のための実態調査－沼津高専1年生を対象として－」『沼津工業高等専門学校研究報告』42, 317-326.
- 寺嶋健史 (2007a). 「現職英語教員の学生時代の辞書使用に関する一考察」『言語文化研究』27(1), 45-60.
- 寺嶋健史 (2007b). 「中学校・高等学校の英語授業における辞書使用の実態調査－愛媛県の英語教員を対象にしたアンケート調査から－」『大学英語教育学会『中国・四国支部研究紀要』4, 19-36.
- 時國滋夫 (2016). 「英語辞書指導に関する一考察－辞書指導のための基礎データ（2015年度大学生約600人分）と考察－」『立正大学文学部研究紀要』32, 149-162.
- 鞘大輔 (2012). 「大学生の携帯情報端末の利用に関する調査」『教育アンケート調査年間2012上』513-518. 創育社.
- 中山千夏・大崎さつき (2009). 「読解における効果的な電子辞書指導を目指して－辞書スキル特定のためのインタビュー結果から－」『共愛学園前橋国際大学論集』9, 61-78.
- 西村公正・須賀廣・鷹家秀史 (2000). 「英和辞典はどのように利用されているか?－大学生・高校生881名の利用状況の分析－」『関西外国語大学 研究論集』71, 277-293.
- 萩野敏 (1995). 「辞書指導としての『学習英語辞典検討レポート』」『大塚フォーラム』13, 84-89.
- 畠山豪 (2001). 「辞書指導の必要性和重要性－大学生の楽手英和辞典の利用に関する調査から－」『盛岡大学英語英米文学会会報』12, 60-68.
- 畠山利一 (1996). 「英和辞典の使われ方－大学生へのアンケート調査より－」『国際研究叢』10(1/2), 79-92.
- Hatakeyama, T. (1998). A Study on the use of English-Japanese Dictionaries. *Osaka International University Journal of International Studies* 11(3), 43-55.
- 藤田恵里子 (2019). 「大学生が使用する英語辞書形態と英語熟達度に関する実態調査」『第12回 JACET 関東支部大会発表要綱』54-55.
- ベネッセ総合教育研究所 (2015). 「第5回学習基本調査」データブック [2015]. <https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4801> (2020年5月25日アクセス)
- 山岸勝栄 (1998). 『学習と英辞典編纂論とその実践』こびあん書房.

資料 実施したアンケート

英語辞書に関するアンケート

学籍番号: _____

氏名: _____

出身校: _____ 中学校/ _____ 高校

高校の時の文・関係、「特進」等のコース名 (もしあれば) _____

現在英語は好きですか。

(好き ・ どちらかと言えば好き ・ どちらかと言えば嫌い ・ 嫌い)

中学・高校時代に英語は得意でしたか (例えば、他教科の成績と比べて)。

中学生の時: (得意 ・ どちらかと言えば得意 ・ どちらかと言えば不得意 ・ 不得意)

高校生の時: (得意 ・ どちらかと言えば得意 ・ どちらかと言えば不得意 ・ 不得意)

学校の授業以外 (塾、英会話学校、検定資格取得のための自主勉強、外国人の友人、海外在住、等) で、英語に触れていましたか。 (いますか)。

中学生の時: (はい ・ いいえ)

高校生の時: (はい ・ いいえ)

大学生の時: (はい ・ いいえ)

大学院の時: (はい ・ いいえ)

その他: (はい ・ いいえ)

現在、最もよく使う英和辞書は以下のどれですか。1つ○をして下さい。

(ジニアス ・ ウィズダム ・ オールラウンド ・ ルミナス ・ スーパーアンカー ・

ライトハウス ・ プロダクト ・ その他 [] ・ わからない)

現在使用中の英和辞書は、初めて使用したものから数えて、() 冊目 [書籍辞書の場合]

() 台目 [電子辞書の場合]

A. 使用辞書の形態に関する質問に答えてください。

- 1) 現在に至るまで、授業関係と授業外で、よく使っていた(よく使う)英語辞書の形態について、下の表に○を記入して下さい。(複数記入可)

*辞書をあまり使っていない場合は、下表の「不使用」欄から選んで○をして下さい。

	使用辞書の形態				不使用辞書の形態			
	辞書関係	辞書関係	辞書関係	辞書関係	辞書関係	辞書関係	辞書関係	辞書関係
使								
用								
不								
使								
用								

*オンライン辞書: パソコンや携帯電話からオンラインアクセスして使用する辞書

*電子辞書: プラットフォーム、タブレット、スマートフォンなどで使用できる辞書機能のアプリやソフト

- 2) 辞書電子辞書を使っていた (使う) 人は、以下の a-e の中でよく使った (使う) 機能すべてに○をして下さい。記入例) ① 発音・音読

また、今まで知らなかった (初めて知った) 機能がなければ、選択肢全体を □ で囲んで下さい。

*電子辞書を使ったことが無い人は、この質問には回答しなくて構いません。

(複数回答可) 記入例) a. 発音・音読

a. 発音・音読	b. 熟語・成句検索	c. 例文検索	d. スペルチェック
e. ジャンプサーチ (参照中の辞書から、他の辞書を直接参照・検索・比較できる機能)	f. ヒストリー、履歴参照 (一度引いた語が自動的に履歴として残り、後で参照できる機能)	g. 単語登録・単語帳 (引いた単語を単語帳として保存・整理する機能)	h. マーカー・付箋 (紙辞書のように、付箋の電子ペンでマークや書き込みができる機能)
i. ワードカード機能 (スペルの一部が不明なときに推測できる機能)	j. その他 ()		

*機能の名称はメーカーやメーカーによって異なるので、() 内の具体的な説明で判断して下さい。

B. 使用辞書の種類に関する質問に答えてください。

1) (辞書、電子、等の形態に限定なく) 現在に至るまでの、英和・和英・英英の各種辞書の使用頻度を教えてください。以下の表の欄に1つづつ数字に○をして下さい。
【数字の意味】

1. ほとんど (全く) 使わず	2. あまり使わず	3. 時々使用	4. よく使用
英和辞書		和英辞書	
中学生入学前: 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
中学生の時: 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
高校生の時: 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
大学入学後: 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4

2) 上の設問の英和辞書について、

A) 4つの時期のいずれかで、3か4に○をした人は、どんな時によく使いました (ます) か。
下枠の a~f から選んで、各時期の記号に○をつけて下さい。(各時期、複数回答可)

中学生入学前: a, b, c, d, e, f	中学生の時: a, b, c, d, e, f	高校生の時: a, b, c, d, e, f	大学入学後: a, b, c, d, e, f
--------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

a. 授業の学習・復習 b. 授業中 c. 受験勉強 d. 検定試験や資格取得の自主勉強
e. 塾や英会話学校など学校外で f. その他

* (その他) の例: 辞書移動で、英語以外の辞書で、なんとなく調べた時、等

B) いずれかで、1か2に○をした人は、その理由を下枠から選んで記号に○をして下さい。(各時期、複数回答可)

中学生入学前: a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k	中学生の時: a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k	高校生の時: a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k	大学入学後: a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k
---	--	--	--

a. 先生が意味を覚えてくれた b. 教科書巻末の用語リストを使った
c. 市販の単語帳・熟語帳を使った d. 教科書ガイドを使った
e. 引いてみたがほしい情報が見つけれなかった f. 友人などに尋ねていた
g. 辞書を引いてまで内容を理解しようとした (引くのが面倒だった)
h. 先生が辞書を使わなくてもよい (使うな) と言った i. 使う機会が無かった
j. 辞書を持っていなかった k. その他

指示があるまで次のページに進まないでください。

C. 一般的な辞書使用に関する質問に答えてください。

1) 今までに英語の先生など周囲から、辞書を使うように促されたことがありますか。
(はい ・ いいえ)
「はい」と答えた人は、その詳細に便しに対してどうしたか、を例に挙げて答えて下さい。
もし、時期や頻度などが異なる複数の機会があった場合は、それぞれを①～⑥を使って別記して下さい。

例 「中学1年生と3年生の時、英語の先生から頻繁に促され、そのとおりに促した」場合
いつ: (小学・中学・高校・大学) (1, 3) 年生の時
誰から: (学校の英語の先生・塾講師・親/兄姉/家族・他)
どの程度: (常に・頻繁に・時々・数回程度)
便しに対して: (促した・ある程度促した・あまり促わなかった・促わなかった)

①いつ: (小学・中学・高校・大学) () 年生の時、
誰から: (学校の英語の先生・塾講師・親/兄姉/家族・他)
どの程度: (常に・頻繁に・時々・数回程度)
便しに: (促した・ある程度促した・あまり促わなかった・促わなかった)
②いつ: (小学・中学・高校・大学) () 年生の時、
誰から: (学校の英語の先生・塾講師・親/兄姉/家族・他)
どの程度: (常に・頻繁に・時々・数回程度)
便しに: (促した・ある程度促した・あまり促わなかった・促わなかった)
③いつ: (小学・中学・高校・大学) () 年生の時、
誰から: (学校の英語の先生・塾講師・親/兄姉/家族・他)
どの程度: (常に・頻繁に・時々・数回程度)
便しに: (促した・ある程度促した・あまり促わなかった・促わなかった)
④いつ: (小学・中学・高校・大学) () 年生の時、
誰から: (学校の英語の先生・塾講師・親/兄姉/家族・他)
どの程度: (常に・頻繁に・時々・数回程度)
便しに: (促した・ある程度促した・あまり促わなかった・促わなかった)

2) 普段英和辞書で単語を調べるとき、第一語義 (1つ目の意味) の他にどの情報をよく見ますか。
以下の a~p から該当する選択肢の番号すべてに○をして下さい。

* 第一語義以外の情報はあまり見ない場合は、この設問には回答しなくて構いません。

a. 2つ目以降の他の語義	b. 熟語、成句	c. 用例・例文
d. スベス・綴り	e. 品詞	f. 発音 (記号)、強勢の位置
g. 見出し語に付いた*目の数	h. 語形変化、派生語	i. 語法・用法、文型
j. 語の切れ目、分解	k. 神話、伝、写真	l. 語源・歴史など
m. 類語、同意語、反義語	n. 関心のコラム覧 (関連情報、日英の違いの説明、等)	
o. 巻頭・巻末の付録 [不規則動詞活用表などを含む]		

D. 「辞書指導」に関する質問に答えてください。

● 辞書中の記号の意味、辞書の引き方、英語学習で辞書を使う意義や理由、など
辞書に関する基本的な指導や説明

1) 今までに、辞書指導を受けたことがありますか。 (はい ・ いいえ)
 a. 右の2, 3B, 4へ
 b. 右の2ではAを回答すること

「はい」と答えた人は、具体的にいつ、どんな場面でも、どの程度教わりましたか。
 教わった内容は右ページの枠内a～eから選んで記号を記入して下さい。 (複数選択可)

* 「1a」で英和、和英で英英の2つに複数パターンある場合は、①～⑥に別記して下さい。

① 時間: (小学・中学・高校・大学) (2, 3) 年生の時
 場面: (学校の英語の授業・塾や予備校など学外・その他 英語以外の科目) で
 辞書の種類: [a. 英和 b. 和英 c. 英英]
 頻度: a. 年間通して定期的に b. 年間通して不定期に c. 年度初めだけ d. 数回車発で
 教わった内容: (d, h, e: 正確な用語を講ずる)
 ② 時間: (小学・中学・高校・大学) () 年生の時
 場面: (学校の英語の授業・塾や予備校など学外・その他) で
 辞書の種類: a. 英和 b. 和英 c. 英英
 頻度: a. 年間通して定期的に b. 年間通して不定期に c. 年度初めだけ d. 数回車発で
 教わった内容: ()
 ③ 時間: (小学・中学・高校・大学) () 年生の時
 場面: (学校の英語の授業・塾や予備校など学外・その他) で
 辞書の種類: a. 英和 b. 和英 c. 英英
 頻度: a. 年間通して定期的に b. 年間通して不定期に c. 年度初めだけ d. 数回車発で
 教わった内容: ()
 ④ 時間: (小学・中学・高校・大学) () 年生の時
 場面: (学校の英語の授業・塾や予備校など学外・その他) で
 辞書の種類: a. 英和 b. 和英 c. 英英
 頻度: a. 年間通して定期的に b. 年間通して不定期に c. 年度初めだけ d. 数回車発で
 教わった内容: ()

3) 授業の予習の時なども含めて、わからない単語の意味を調べるときに、どうすることが多かった(多い)ですか。以下の表で該当する枠に○を記入して下さい。(複数記入可)

辞書を引く(引いた)	中学生の時	高校生の時	大学入学後
ネットで調べる(調べた)			
市販の単語帳で調べる(調べた)			
道かに尋ねる(尋ねた)			
教科書巻末の単語リストを使った			
教科書がイデ(漢の巻)を使った			
何もしない調べようしない(しなかった)			
その他: ()			

4) 英文圏陣中に辞書を引くタイミングについて、現在、以下のどの場合が最も多いですか。該当する記号を「」だけ○をして下さい。

- a. 未知の語句を見つけたとすぐに引く
 b. ある程度英文を読み進んでから引く
 c. あえて辞書を引かず推測を試みる
 d. 辞書を引いてまで意味を知ろうとはしない

指示があるまで次のページに進まないでください。

